

第9回



子どものまち・いえ ワークショップ提案コンペ

次世代を担う子どもたちに建築を学ぶ機会を提供したい。机上の勉強ではなく、身体全体を使って楽しみながら建築を体験してもらいたい。そのような思いをもって、わたしたち日本建築学会子ども教育事業部会では、1991年から建築をテーマにした子ども向けのワークショップ「親と子の都市と建築講座」を継続的に開催してきました。

近年では、学生の瑞々しい感性から生まれるアイデアに可能性を見出し、学生が子ども向けのワークショップの企画を提案できる「子どものまち・いえワークショップ提案コンペ」を開催しています。本コンペの最優秀賞企画は、ワークショップ「親と子の都市と建築講座」として実現します。企画運営の主体は、最優秀賞に選ばれた学生の方々です。そのため、企画の実現可能性や自分たちで実施するという意欲が求められますが、ワークショップの経験は問われません。未経験者からの応募も歓迎します。ぜひたくさんのご応募をお待ちしています。

(A)応募票, (B)WS概要票, (C)プレゼンシートを5月31日(金)17時までには郵送または持ち込みで下記に提出して下さい。

〒108-8414 東京都港区芝5丁目26番20号 日本建築学会事務局「子どものまち・いえワークショップ提案コンペ」係

(A)応募票と(B)WS概要票の書式は下記よりダウンロードしてください。(C)プレゼンシートはA3版で書式は自由です。

<http://www.aij.or.jp/jpn/symposium/2019/kodomocompe2019.zip>

詳しくは裏面をご参照ください。



会場：建築会館ホール

応募締切

5/31

公開審査会

6/8

主催：日本建築学会

第9回子どものまち・いえワークショップ提案コンペ 募集要項

【スケジュール】

- ①2019年5月31日(金) 企画募集締め切り
- ②2019年6月8日(土) 公開審査会
- ③2019年6月～秋頃 講座の企画・準備
- ④2019年秋頃 「親と子の都市と建築講座2019」開催

【応募要項】

《応募対象》

- ①5名以上からなる学生団体。(大学院・大学・専門学校等、ワークショップ経験有無は不問)
 - ②代表者を1名選出し、事務局と連絡がやり取りできる状況であること。
- 《応募方法》(参照:最下段HPに応募要項、応募票、WS概要票を掲載)
- ①(A)応募票、(B)WS概要票、(C)プレゼンシートを提出すること。
 - ②(A)応募票には、代表者情報、団体メンバー情報(6月8日(土)公開審査会後に行われる懇親会(右面参照)の出欠も含む)を記入すること。
 - ③(B)WS概要票には、実施予定日時・実施場所(企画条件参照)・当日スケジュール・スタッフ配置・予算等の各項目を記入すること。
 - ④(C)プレゼンシートには、企画タイトル・コンセプトなど、ワークショップを実施するために必要な情報を明記すること。ここには代表者情報や団体メンバー情報を記載しないこと。
 - ⑤(C)プレゼンシートは、テーマを掲げて「子どものまち・いえワークショップ」を企画し、A3判1枚(縦使い横使いは自由)にまとめて、(A)応募票、(B)WS概要票とともに、5月31日(金)17時までに提出すること。
- ※コンペ当日に事務局がWS概要票とプレゼンシートを掲示する。
※ワークショップ実施にあたっては実行委員会を設立し、最優秀賞プログラムを軸に実行委員会準備・運営を行うので、スタッフ配置については団体人数を越えて想定しても良いものとする。
※参加者募集(広報)については、子ども教育支援建築会議子ども教育事業部会が担うが、企画団体でも参加者募集を行ってください。

《企画条件》

- ①テーマは特に絞らないが、『まち・いえ』(住環境)に関わる企画とする。
 - ②すでに主催者・団体が決定している企画については、主催者・団体名を記載すること。
 - ③過去に実施された企画を応募する場合は、開催実績を記載すること。
 - ④企画実施日については、2019年秋頃の土曜・日曜・祝日のいずれかの日程で行うこととする。※実施日は、審査会後に調整を行う。
 - ⑤想定実施場所としては、東京近郊とする。次の2箇所いずれかを実施場所として希望する場合、実施フィールドの確保を支援する。
- ※Ⅰ)晴海トリトンスクエアおよびその界隈、Ⅱ)建築会館イベント広場
- ⑥実際に行うことが決定したプログラムに対しては、本会より上限10万円をワークショップ実施費用として用意する。
 - ※予算には、スタッフの交通費や道具の郵送料等も含む。
 - ※場合によっては、複数の企画に予算を分配し、採択する可能性がある。
 - ⑦実行委員会には子ども教育支援建築会議子ども教育事業部会委員も参画し、実施に向けてサポート・アドバイスを行う。また、実施プログラムの著作権については、応募団体と子ども教育支援建築会議子ども教育事業部会に帰属するものとする。
- ※最優秀賞作品およびコンペに応募された全作品について、部会HP等に掲載し、公開する場合がありますので、ご了承ください。

《応募締切》

2019年5月31日(金) (郵送または持ち込みで17時必着)

《結果発表》

2019年6月8日(土)に「第9回子どものまち・いえワークショップ提案コンペ」を実施します。公開審査会で最優秀賞を決定します。

※当日の詳細については、後日応募代表者にご案内します。

《応募先》

日本建築学会事務局「子どものまち・いえワークショップ提案コンペ」係
〒108-8414 東京都港区芝5丁目26番20号

TEL 03-3456-2051 E-mail mishima@aij.or.jp

HP <http://www.aij.or.jp/jpn/symposium/2019/kodomocompe2019.pdf>

【作品展示】

以下の期間において、全応募作品を展示する。

《期 間》

2019年6月8日(土)～15日(土)

《場 所》

建築博物館ギャラリー(東京都港区芝5丁目26番20号)

【企画発表会・公開審査会】

当日はポスターセッション形式で公開審査会を実施する予定。

※ポスターセッションの際は必要に応じて、模型等の説明資料を持参可能とする。

《日 時》

2019年6月8日(土) 13:00～

《場 所》

建築会館ホール(東京都港区芝5丁目26番20号)

《審査委員》

- ・審査委員長:山梨知彦(建築家、日建設計常務執行役員)
日本を代表する組織設計事務所、神保町シアタービル・乃村工藝社本社ビル・木材会館・ホキ美術館・ソニーシティ大崎など、注目を集める作品の発表を続ける建築家。
- ・中津秀之(関東学院大学建築・環境学部 准教授)
安全で創造的な子どもの遊び空間をはじめ、設計実務・展示・ワークショップなどを通じて、生活環境・都市環境に提言を続けるランドスケープ・アーキテクト。
- ・角館まさひで(東京都市大学客員教授、ほんぼり光環境計画代表)
「ふじようちえん」をはじめとした数多くの幼児施設のプロジェクトに関わり、全国各地で住民の地域活動に繋がるワークショップにも経験豊かな「あかり博士」。
- ・遠藤幹子(建築家、マザー・アーキテクチュア)
オランダでの留学・活動を経て、展覧会・ワークショップ・テレビ番組のスタジオセットなどでも成果を残し、子どもと建築の関わりに実践を重ねている建築家。
- ・木下洋介(構造家、木下洋介構造計画)
建築構造の専門家として多くの建築に携わる。
学生向けの仕事紹介セミナーや自身の子育てと仕事について書いた「子育てしながら建築を仕事にする」(共著)も昨年出版。

【懇親会】

審査委員や子ども教育事業部会委員も参加する予定です。

《日 時》

2019年6月8日(土) 17:30～19:00

《場 所》

建築会館ホール(東京都港区芝5丁目26番20号)

《参加費》

当日500円/1人お支払いいただきます。左面《応募方法》③の団体メンバー情報と共に、懇親会への出欠をご連絡ください。

【過去の最優秀賞作品の紹介】

子ども教育支援建築会議のfacebookを通じて、事業やイベント等、さまざまな内容を発信しています。昨年実施されたコンペの様子も公開しています。
<https://www.facebook.com/rakurakukenchiku>



【参 考】

- 1)日本建築学会子ども教育支援建築会議ホームページ
「楽々建築・楽々都市」<http://news-sv.aij.or.jp/kodomo/>
- 2)文献『楽々建築・楽々都市「すまい・まち・地球」自分との関係を見つけるワークショップ』日本建築学会編/技報堂出版